

の持つ重層的なニュアンスを掴んでいきます」とあり、適切です。

- イ 「具体的なエピソードは案外思い出せないもの」とあり、誤りです。
- ウ 「その(=エピソード)中から言葉の意味を抽出する」とあり適切です。 答えはEです。
- 問2 ア 「幼少時」については、エピソード記憶との関連で述べられていますが、逆にエピソード記憶は、幼少時のものだけを対象にしたものであるかどうかは不明です。
- イ 「言葉だけではなく、例えばある人がどういう性格かということも、その人といろいろ話をしながら理解していくもの」とあり、適切です。
- ウ 「その延長線上にひらめきがあるといってもよい」とあり、関係が逆なので誤りです。 答えはBです。
- 問3 ア 最後の段落に「思い出すことのできないエピソードの蓄積」によって「意味の森」を育むことができるとあります。さらに一つ前の段落には「思い出せないエピソードが、無駄になっているわけではない」とあり、これらの痕跡が「意味を縦横無尽に使いこなして、人生を豊かにする」ことになります。これより適切と判断できます。
- イ 英語が苦手な理由として、エピソード記憶が少ないままに辞書を引くなどの少ない事例から理解しようとしていることに対して、「日本語理解がとて重層的で豊かなのは、膨大なエピソード記憶の蓄積がある」ことから、エピソードの蓄積が言葉の習得に重要であると判断できます。
- ウ 言葉の意味を辞書で調べることについては、本文中の2か所で話題にされていますが、それがエピソードとして蓄積されるかどうかは述べられていません。 答えはDです。

POINT

- ・長文読解は、キーワードを意識しながら本文を速読する。
- ・解答のカギになる部分にラインを引く。
- ・選択肢の主述・因果関係などが本文と一致しているか確かめる。

□▷P63 課題1・2

エントリーシートを納得いくものに仕上げることは、徹底した自己分析を伴う作業であり、自分を見つめることによって、現在以上のヒューマンパワーを得るための貴重な機会にもなります。就職活動を自己成長のチャンスととらえ、前向きな姿勢を実際に持つことは、企業に高く評価されるはずですよ。

さて、エントリーシートを充実した内容にする最大のコツは、「具体的に書く」ことです。つい、抽象的な言葉を多用しがちですが、それは読む人(人事担当者)は、面倒だから読み飛ばしているかも知れません。あなたの特徴を素早く把握するために、体験、データ、成果、成績などの具体的な部分だけを拾い読みしているかも知れないのです。

まず、多くの企業がエントリーシートに求める3大項目の1つである「志望理由」の書き方のポイントを学習してみましょう。

ほとんどの企業において、就職活動のいずれかの段階で志望理由が問われないことはないといえます。「なぜ、うちの会社に入りたいのか」、応募者にはっきりこたえてほしいという趣旨です。

間違いはいけないのは、「業界(業種)」や「職種」の志望理由を書くのではないということです。あくまでも「その企業をなぜ希望するのか」を明確にすることです。また、その企業にはどんな魅力的な面があるかという内容に終始してはいけません。

その企業において、あなたが「何をしたいのか」、逆にいえば、何をするためにその企業に入社したいのか、という「自己実現」と「企業」とを結びつける項目であるのととらえるとよいでしょう。